Ⅰ　実践

1　研究主題

誰に対しても公正・公平に接し，差別や偏見をもたない児童の育成

（1）　主題設定の理由

本校は，「心豊かで　自ら学び　健康な児童の育成　＜楽しい授業・温かい教室・夢はぐくむ学校＞」を教育目標としている。それを受けて，人権教育では，「誰に対しても公平・公正に接し，差別や偏見をもたない生活態度を養い，人権感覚や人権意識の育成」を目標として人権教育を行ってきた。その結果，思いやりの心をもって行動できる児童が全体的に多く見られる。しかし，自己中心的な行動をとったり，他者の考えを受け入れられず思いやりに欠けた行動をとったりする児童もいる。

そこで，学校の教育活動全体を通して，誰に対しても公正・公平に接し，差別や偏見をもたない児童の育成を本主題として設定した。

（2）　研究の内容

ア　豊かな体験活動

イ　他学年との交流活動を通して

2　実践内容

（1）　豊かな体験活動

ア　地域の方や特別支援学校との交流活動の実施

秋の「ゆなごまつり」では，２年生が１年生や幼稚園児を招待して声をかけたり教えたりしながら，楽しく活動することができた。また，本校体育館で行われる油縄子地区の敬老会（ふれあいの会）に参加し，学年の発表だけでなく，ふれあいの時間も設定して地域の方と交流を深めている。２年生は Hey Mickey，４年生はソーラン節，６年生は Hi-tachi ダンスを元気いっぱい発表することができた。

４年生は日立特別支援学校との交流学習を行った。グループごとに自己紹介をしたり，一緒に歌やゲームをしたりして互いを知るよい機会となり，交流を深めることができた。

（2）　他学年との交流を通して

ア　異学年との交流活動の実施

月に１回程度，１～６年生で構成される縦割り班による活動を行っている。ロングの昼休み（キッズタイム）には，班ごとに遊びを考え，１年生と６年生が一緒に手をつないで行動するなど，高学年が低学年のサポートをしながら遊んでいる。遊びの内容は鬼遊びやドッジボールが多いが，高学年が新しい鬼遊びを提案したり，学年で行った遊びを縦割り班で行ったりして，年々種類が増えている。また，年に２回程度，計画委員会を中心に，縦割り班対抗の遊びを行う児童集会を行っている。この集会ではスポーツレクを取り入れ，楽しく活動している。異学年で遊んだり，話し合ったりすることで，いろいろな友達と関わりをもつ時間となっている。

「ふれあいの会」の様子

「ゆなごまつり」の様子

児童集会の様子

また，愛校作業も縦割り班で活動し，異学年で協力しながら清掃活動に取り組んでいる。一人一人が自分の立場を考えた行動をとり，周囲の友達を思いやる態度を育てるよい機会となっている。

ＪＲＣ人権集会

イ　人権集会の実施

JRC 結団式を含めた人権集会は，福祉・環境委員会が中心となり，「人権」という言葉の意味を確認した。また，アンリーデュナンのことを知り，福祉に対しての理解を深めた。集会の最後には，それぞれのクラスが４月に決めたクラス目標を発表し，どのクラスの目標も自分や相手のことを考えた目標になっていることを確認することができた。

ウ　人権メッセージの実施

１～２年生は夏休みの課題として取り組んだ。保護者と一緒に人権について考える機会となった。３～６年生は道徳の授業として取り組み，人権意識を高めることができた。

３　成果

（１）　豊かな体験活動

児童は，お年寄りや幼稚園児，特別支援学校の児童など，様々な人々と交流をもつことができた。交流をもつ中で，最初は戸惑っている児童もみられたが，時間が経つにつれて笑顔が増え，積極的に交流する姿が見られるようになった。

（２）　他学年との交流を通して

交流活動では，自他の立場を考えながら，思いやりの気持ちをもって相手に接することの大切さを学び，互いに助け合い支え合っていこうとする気持ちが高まってきている。また，相手の立場になって考え行動した結果，喜んでもらうことで，自己有用感も高めることができた。人権集会では，児童の人権に対する意識を高めることができた。

Ⅱ　今後の課題

人権教育は，学校の教育活動全体で行われるものであり，日常生活に生かされていくものである。一度だけの活動で終わることなく，くり返し継続して取り組むことによって互いの人間関係が深まり，助け合いや思いやりの心が育つ。そのために，教職員の人権に対する共通理解を図り，児童の人権感覚の育成を図る。さらに，家庭や地域との連携を図りながら，系統的・計画的に活動することが必要である。

Ⅲ　人権コーナー設置の様子